

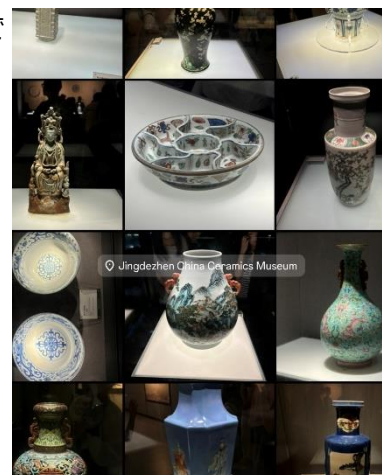
令和6年度中国・南昌市への青少年訪問団派遣事業 事後報告書

◆名前：伊井 まりん

江西省及び南昌市に滞在中の様子や本事業で得たこと、感想等をご記入ください。
(1,000字程度)

今回の中国・南昌市への青少年訪問団派遣事業では、中国の魅力にたくさん触れることができました。

その中でも特に心惹かれたのが「陶磁器」です。南昌市・景德鎮市は陶磁器で有名な地域であり、私たちは博物館や遺跡を訪れました。景德鎮中国陶磁器博物館では古代から現代までの陶磁器が展示されており、その変遷を学ぶことができました。また景德鎮陶磁技術師学院を訪問し、陶芸や絵付けを体験したことで、形作りの難しさ、絵の濃淡をつけたり細い筆を扱ったりする難しさを実感しました。実際に体験できたこともあり、博物館に展示されている陶磁器の技術の高さに驚きました。さらに、陶源谷、陶溪川文創街区、周圩磁器工場等の観光地では、芸術家や職人が集まりひとりひとりが個性溢れた作品を作っていました。現代でも陶磁器作りが受け継がれていることに感心しました。



中国の文化を知ることは私の今回の派遣事業の目標の一つでした。まず、日本と中国の交通面での違いに驚きました。私が訪れた南昌市と景德鎮市ではバイクが交通手段の主流であり、歩行者や自転車に乗る人が非常に少なく感じました。また、自動車優先のため、道路を横断することが難しく感じました。食の面では、南昌市辺りの地域は辛めの料理が多いと聞いていましたが、思いのほか食べやすい辛さで本当においしかったです。本場の北京ダックを食べられたことがとても嬉しかったです。食事の際、お皿の並べ方、使い方などを教えてくださいました。日本とは全く違うルールに新鮮さを感じました。



この7日間を通して、自分の目で見て、自分自身で体験してみることが大切であることを学びました。私は、中国に行く前、ニュースやインターネットの情報でしか知らない中国に少し不安を持っていました。ですが、実際に行ってみると中国の人たちは私たちをとて歓迎してくださり、コミュニケーションを取ろうと翻訳アプリを使ったり、手で表現してくれたり、とても暖かく対応してくださいました。中国の人たちの優しさのおかげで楽しく過ごすことができました。実際に現地に行き、現地の雰囲気を感じながら、現地の方々とコミュニケーションを取れたことで、今後も中国・南昌市の魅力伝えていきたいと心から思いました。

最後に、引率者の皆様、ガイドや通訳などたくさんサポートして下さった現地の皆様、本当にありがとうございました。充実した7日間を過ごせました。今回の派遣事業を通して今後の自分自身の成長に繋げていきたいです。